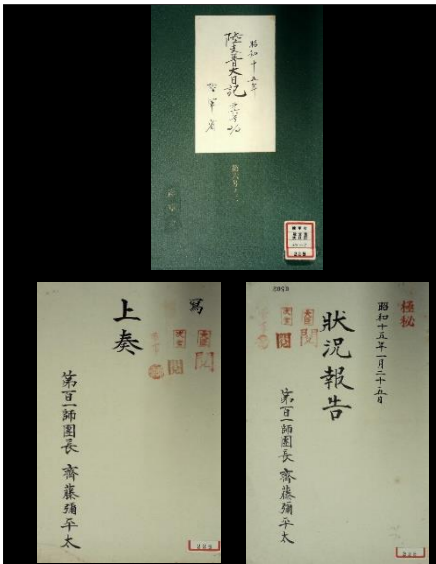


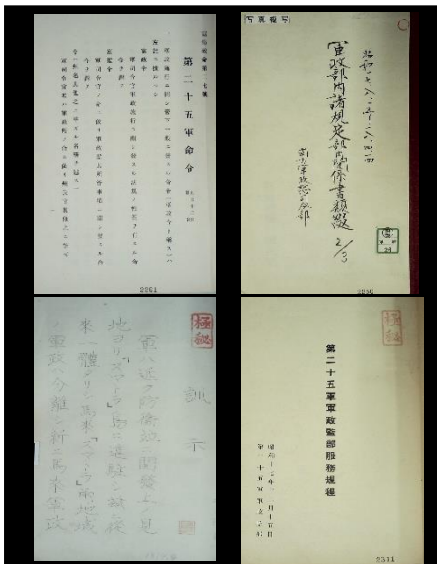
平成 30 年度も、各都道府県出身の陸海軍将官の中から毎月一人を取り上げて、戦史研究センター史料室が所蔵するその人物などに関連する史料を紹介しています。

《 さいとう やへいた
齊藤 彌平太 1885～1953年 》
—香川県出身の陸軍中將—



第 101 師団状況報告 (登録番号：陸軍省-陸支普大日記-S15-7-228)

齊藤彌平太中將は、明治 40 年 5 月陸軍士官学校 (19 期) を卒業後、関東軍参謀、第 4 独立守備隊司令官などの要職を経て、昭和 13 年 11 月 9 日、武漢攻略作戦で活躍した第 101 師団長に就任します。同師団は最初の特設師団であり、将兵の大半は予備役からなり、その素養は優良とはいえませんでした。齊藤は、政戦略上の要域にある南昌攻略の第 11 軍命令を受け、軍の主力部隊として任務を完遂します。この間、文化史跡の保護にも着意します (齊藤彌平太遺族編『追憶 齊藤彌平太』平成 6 年、非売品)。この史料には、第 101 師団の内地帰還に際し齊藤が上奏した、動員下令からの師団の軍状が綴られています。出勤当初は戦力発揮もままならなかった特設師団が、最終的には常設師団同様、精強な部隊となったことなども強調されています。



軍政部内諸規定部内関係書類綴 2/3 (登録番号：南西-軍政-26)

第 101 師団長ののち、昭和 15 年 4 月に創設された兵器本部長の要職を務め、昭和 17 年 7 月 1 日に第 25 軍司令官に就任、9 日に司令部のある昭南 (シンガポール) に着任します。昭南は齊藤にとって 2 度目であり、軍司令官としての着任は感慨深いものでした。齊藤は自らの任務を軍の統率と軍政の実施と考えていましたが、軍政実施にとり大きな関門として、軍司令部の移転という問題が浮上します (『齊藤彌平太陣中日記』南西-マレージャワ-321)。この史料には第 25 軍に関連する軍政実施上の命令、諸規定、また、問題となったスマトラへの進駐を述べた軍司令部の移転に伴う訓示も綴られています。この訓示がなされた昭和 18 年 4 月 8 日、齊藤は、軍司令官から参謀本部付となり、5 月、予備役編入となります。その後、齊藤は満州拓殖公社総裁となり終戦を迎えます (『追憶 齊藤彌平太』)。

《お知らせ》

史料保存のためのマイクロ撮影にともない、一時的に閲覧できない史料があります。

詳しくは、防研ウェブサイト「閲覧が一時不能となる史料」をご覧ください。

※ 記事に関する御意見、御質問等は下記へお寄せ下さい。なお、記事の無断転載・複製はお断りします。
防衛研究所企画部企画調整課

専用線：8-6-29171、29175 (史料紹介コーナーのみ29651)

外線：03-3260-3011

FAX：03-3260-3034

※ 防衛研究所ウェブサイト：<http://www.nids.mod.go.jp>